

第 32 回愛知県作業療法学会 演題募集要項

1. 募集演題の発表形式

発表形式は口述発表で、発表時間は 7 分、質疑応答は 3 分です。

・使用するソフトは、Power Point Microsoft Office2016、Microsoft Office 2021、Office 365 は対応で、音声や動画ファイルの使用も可能ですが、事前に試写を行なってください。発表形式に関しては別途発表者の皆様へ HP 上でお知らせします。

2. 応募資格

1) 演題発表筆頭者として応募する作業療法士は、日本作業療法士協会の正会員また賛助会員かつ、愛知県作業療法士会の会員であることを条件とします。

2) 他職種の方においても、共同演者になることができます。その場合は、会員番号欄に職種名を入力して下さい。なお、会員番号欄に記載された職種名は抄録に表示されません。表示が必要な場合は、名前か所属先の後ろに（ ）で記載して下さい。

3) 作業療法士以外の方でも、学会長の承認を受けて演題を筆頭者として応募することができます。希望の場合は事務局までお問い合わせください。

4) 他学会ですでに発表された演題は応募できません。

※演題締め切り時点で、2023 年度の協会会費・県士会費が未納の場合は応募できません。

3. 募集期間と登録方法

演題募集期間 2023 年 10 月 2 日（月）12:00～2024 年 1 月 26 日（金）12:00 迄

・期間内に、ホームページの「演題登録」のページから、画面の案内に従って抄録を登録して下さい。

募集期間内は、ログインして何度でも原稿内容の修正が可能です。

※締め切り前の数日は、アクセスが集中し、システムトラブルが起こる可能性があります。時間に余裕をもって登録して下さい。

4. 抄録の作成

1) 抄録の作成要領

・本文は 700 文字以内で作成してください。

(Word で下書きを作成する場合は、「校閲」メニューから「文字カウント」を表示して確認して下さい。ページ下部に記載されている「〇〇文字」は、単語数を表示していますのでご注意ください)

・本文内に【 】で小見出しをつけて改行してください。

例えば、研究発表には【背景】【方法】【結果】【考察】、

症例報告には【はじめに】【症例紹介】【介入経過】【考察】などの小見出しをご使用ください（末尾の抄録例を参照）。

・小見出しの改行後は、基本的に 1 文字下げで文章を始めてください。

- ・句読点は全角「、」「。」で統一してください。
- ・英数字はすべて半角で入力してください。
- ・空行は入れないでください。なお、改行が多い場合には、学会事務局で改行を削るなどしてレイアウトを調整させていただく場合があります。
- ・図表や写真は使用できません。

2) 倫理的配慮

- ・倫理的配慮について明記してください。
例えば、研究発表には〇〇大学倫理審査委員会で承認されたこと、症例報告には対象者に対して説明・同意を得たことを記載してください。
- ・症例報告以外の人を対象とした研究では、特定の倫理・利益相反委員会への申請および承認が必要となります。

5. 演題の審査

- ・応募頂いた演題の審査結果を2月中にメールでお知らせします。採否は、演題審査委員会による選考結果をもとに学会長が決定致します。
- ・学会当日の演題の発表時間帯については、学会長にご一任ください。

6. 発表時の利益相反（COI）の明示

- ・研究における公正性や信頼性を確保するために、COI 関係にある企業等の有無を明示してください。企業や営利団体等から金銭等の提供を受けた場合や受ける予定がある場合には、発表時に詳細を述べてください。

例 1) 演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業等はありません

例 2) 演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業として、

顧問：なし 株保有・利益：なし 特許使用料：なし 講演料：なし

原稿料：なし 受託研究・共同研究費：〇〇製薬

奨学寄附金：〇〇製薬 寄附講座所属：あり(〇〇製薬) 贈答品などの報酬：なし

以上

<参考1：抄録例（研究発表編）>

<p>【 〇〇 】小見出しをつける 見出し後の文章は改行して始める</p>	<p>【背景】（一般的に言われていること、臨床的疑問、目的など） 〇〇は〇〇であるとされており、その治療として〇〇を行うことが推奨されている。本研究では〇〇をすることで〇〇に与える影響を検討することを目的とした。</p>
<p>英数字は半角で入力</p>	<p>【方法】※期間、対象者、解析方法など 2019年〇月〇日～。 〇〇した〇名を対象とした。</p>
<p>倫理的配慮を必ず入れる</p>	<p>実施した内容 解析方法 統計解析には〇〇を使用した。有意水準は〇%とした。</p>
<p>読点は「、」句読点は「。」を使用する</p>	<p>【倫理的配慮】 本研究は〇〇の倫理審査委員会の承認を得て実施した（〇〇-〇〇）。</p> <p>【結果】 〇〇した〇名と、しなかった〇名を比較すると、〇〇であった。（〇〇な傾向にあった。有意差があった。など）</p> <p>【考察】（結果を受けて、何がいえるのか。） 差が生じたのは、〇〇と考えられる。</p>

<参考2：抄録例（症例報告編）>

<p>【 小見出しをつける 見出し後の文章は改行して始める</p> <p>英数字は半角で入力</p> <p>倫理的配慮を必ず入れる</p> <p>句読点は「、」句読点は「。」を使用する</p>	<p>【はじめに】 〇〇な症例を経験した。</p> <p>【症例紹介】 症例は、左脳梗塞を呈した80歳代の男性であった。 Brunnstrom Stage (BRS)は〇〇であった。</p> <p>【倫理的配慮】 個人情報保護に留意し、個人を特定できない形とした。学会発表に際して、本人もしくはご家族に同意を得た。</p> <p>【介入経過】 初期評価 右上肢に対して促通療法を・・・ 最終評価</p> <p>【考察】 先行研究では、〇〇であるとされている。本症例においては〇〇であった。本症例が〇〇だったのは、〇〇と考えられる。</p>
--	---